

8 環境に及ぼす影響の内容及び程度並びにその評価

8.9 景観

8.9 景観

8.9.1 現況調査

8.9.1.1 調査方法

(1) 圧迫感の状況

形態率は、「圧迫感の計測に関する研究・1（圧迫感の意味と実験装置）」（昭和52年11月、日本建築学会論文報告集第261号、武井正昭・大原昌樹）において、「建築物の外形の水平面立体角投射率」と定義され、建築物等による圧迫感を計測する指標のひとつである。

形態率の算定方法は図8.9-1に示すとおり、日照・日影の分野で用いられている天空率と同様の概念であり、具体的には魚眼レンズ（正射影）で天空写真を撮影したときに、写真内で対象建築物が占める面積比（%）として表される。

（算定式）当該地点における対象建物の形態率

$$c \text{ (形態率)} = (S_0 / \pi r^2) \times 100 (\%)$$

S_0 : 建築物の外形を、測定点を中心として天球面に射影したものの（ S ）を、さらに測定点を含む水平面に正射影した面積
（=天空写真内で対象建物が占める面積）

r : 天球を、測定点を含む水平面に正射影したものの半径
（=天空写真の半径）

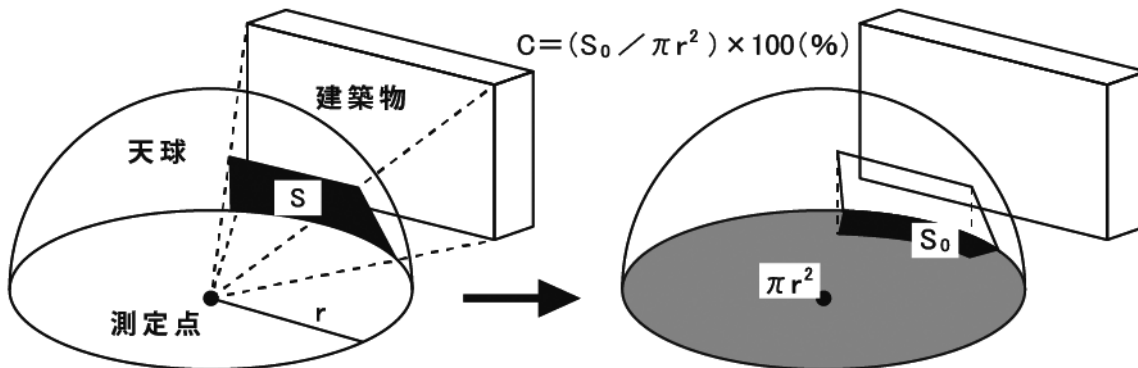


図 8.9-1 形態率の算定方法

